**オンリーウォッチ 2021に向けて**

**ブルドッグがパンダに変身**

**HM10パンダ フォー・オンリーウォッチは、コレクターを笑顔にするだけではありません。この時計の持つ重要な意味がコレクターの心を捉えるのです。**

2年に1度開催されるオンリーウォッチは今年で9回目を迎えます。これはユニークなタイムピースのチャリティーオークションであり、その収益の99%は、主に幼児期の男児に現れ、進行性筋肉変性を特徴とする遺伝性疾患「デュシェンヌ型筋ジストロフィー」の研究資金に充てられます。MB&Fが自社のマシンの1つをオンリーウォッチに提供するのはこれが6回目。MB&Fは今回もまた真にユニークなタイムピースの創造に取り組み、期待をはるかに上回る成果を成し遂げました。

「リュック・ペタヴィーノ（オンリーウォッチの創設者兼オーガナイザー）と亡くなった彼の息子のポールに初めて会ったのは2005年のことです」とMB&F創設者マキシミリアン・ブッサーは説明します。「私にとって、オンリーウォッチはマーケティング戦略でも楽しいイベントでもありません。我々は、リュック、ポール、そしてデュシェンヌ型筋ジストロフィーに苦しむ他のすべての子どもたちの物語に深く関わっているのです。」

今回のエディションでは、MB&Fはオロロジカル・マシンNo 10（別名HM10 ブルドッグ）を世界で最も希少でかわいい哺乳類の1つ、大人も子どもも大好きなパンダに変身させました。幼少時のマキシミリアンのお気に入りの玩具も、パンダだったのです。

パンダと子どもは切っても切れない関係にあります。当然のことながら、パンダがMB&Fとオンリーウォッチに登場するのは初めてのことではありません。2011年の第4回オンリーウォッチでは、MB&Fは中国人アーティスト、Huang HankangとのコラボレーションでHM4を発表しました。このHM4は、HM4ジェットの上をミニチュアパンダが飛ぶデザインです。

丸みがありコンパクトなボディのオロロジカル・マシンNo10をベースにした今回のオンリーウォッチのユニークな新作は、抱きしめたくなるようなパンダのフォルムそのもの。ケースの上部は、パンダの色に合わせて白黒のラッカーでコーティングされています。ラッカー仕上げに合わせて、HM10の標準型チタンケースの上部は、ステンレススティール製のこのユニークピースのために特別に加工しなければなりませんでした。その他のユニークな仕様として、サファイアクリスタルドーム上に加えられたブラックチタン製のパンダの耳2つ、機械加工によるグレード5窒化ケイ素（セラミックス）で作り込んだかわいい尻尾などがあります。

ウォッチの文字盤の主役である2つのブラックアルミニウム製の時間表示ドームは、紛れもなくパンダの瞳のよう。一般に黒いカウンターが付いた白い文字盤を、愛情を込めて「パンダダイヤル」と呼ぶように、時計製造の世界で「パンダ」という言葉が使われていることも頷けます。パンダの特徴は他にも盛り込まれています。あなたの手首をしっかりと包み込む頑丈でありながら柔軟な「脚」。絶えずタケノコを咀嚼するパンダの強靭な歯。

歯は見て楽しいだけでなく、パワーリザーブ表示機能も担います。口が完全に閉じていれば、パンダの巻き上げ残量が少なくなってウトウトしていることを示します。顎の周りの輝く歯の列がはっきりと見える場合は、45時間分が主ゼンマイで巻き上げられていることがわかります。この立体的なパワーリザーブ表示は、できる限り少ないエネルギーで駆動するよう設計、調整されています。これにより、吊り下げ型テンプと回転式時分表示ドームに、主ゼンマイのトルクを集中させることができます。

幅45mm、鼻先から尻尾までの全長54mm、厚みは最大24mmという丸みを帯びた形状にもかかわらず、HM10 パンダは驚くほど快適な装着感を実現。スプリングつきの「脚」のようなラグでボディは手首にぴったりとフィットします。ストラップは片面がブラック、反対側はホワイト。さらに、このユニークピースはMB&Fが社内で設計開発したHM10の手巻きエンジンを搭載しています。心臓の鼓動も脳の働きも目にすることができる数少ないタイムピースの1つであり、パンダに命を吹き込むのにうってつけのキャリバーです。

HM10パンダは、時計製造の世界ではよく知られる、多分野にわたり活躍中のデザイナー、リー・ユエン-ラパティ（インスタグラムアカウント@onehourwatch）のユニークな作品とともにお届けします。HM10パンダに着想を得て、オークションのためにリーが特別にクリエートしたイラスト作品です。

**時計とともにお届けするアート作品について**

MB&Fは長期にわたって、リー・ユエン-ラパティが時計にインスパイアされて描き出す作品に注目してきました。先頃、リーは時計ファンコミュニティ「RedBar」とズームでセッションを行う中で、舌を突き出したHM10ブルドッグをライブで描いていました。これがきっかけとなって、オンリーウォッチのための特別コラボレーション実現への運びとなりました。

リーは、HM10 パンダのコンセプトを完全に説明する作品を数点クリエートしました。「だれかの手首の上で休むパンダ、子どもが愛情を込めて腕の中に抱きかかえるパンダ、竹林でパンダがくつろいで笹の枝を食べるところ...また、時計のロボットパンダが登場する短い4コマのストーリーを創作しました。このパンダは別の惑星を探検するためにやってきたのです...これは夢のプロジェクトの1つでした」彼は笑顔で語ります。

リーは、テクスチャード紙にアルコール系マーカーペンと特殊なペンを組み合わせた、ストーリー性のある遊び心あるイラストで知られます。彼はノバスコシア美術デザイン大学で学際的デザインを学び、英国のレディング大学で書体デザインの修士号を取得しました。インスタグラムアカウント@onehourwatchで独創的な時計のデッサンを日々発表し、さまざまな時計メーカーやブランドにイラストやタイポグラフィーデザインを提案しています。

**オロロジカル・マシン NO.10について**

HM10 パンダを動かすメカニズムは、2020年に初登場したオロロジカル・マシン NO.10と同一です。このエンジンはすべて社内で設計および開発され、ムーブメントに関するMB&Fの専門知識とさまざまな分野の技術を結集し、長年の経験により磨き上げられたものです。

中央のサファイアクリスタルドームの中に宙吊りにされ、伝統的な2.5Hz（18,000vph）のペースで鼓動するアイキャッチーなテンプは、MB&Fの作品として2011年に発表されたレガシー・マシン N°1に初めて搭載されました。以来、この技術的に極めて高度なメカニズムはMB&Fを象徴するアイコンとなり、多くのレガシー・マシンに搭載されてきました。こうしてオロロジカル・マシン N°9、HM10 ブルドッグに続き今回、HM10 パンダにも搭載されることになったのです。

HM10 パンダのパワフルで衝撃的な時刻表示ドームは、オロロジカル・マシンN°3に登場した円錐形の時分モジュールを見直したもの。オロロジカル・マシン N°3は、既存の概念を打ち破るブランドとしてのMB&Fの名声を揺るぎないものとした作品です。円錐形のモジュールはHM3 フロッグでは丸みを帯びたフォルムになりましたが、エンジンの他の部分に掛かる負荷を最小限に抑えるために、できるだけ軽量化することが急務でした。そこで従来のフライス加工のプロセスを見直し、公差が最小になるようにすることで、紙ほどに薄いアルミニウム製の部品を立体的に仕上げることができたのです。この部品は、オロロジカル・マシン N°6にも登場。円錐歯車と組み合わせることで、極めて精密な時間表示を可能にしています。

301の部品からなるHM10のエンジンは手巻き式で、45時間のパワーリザーブを実現するシングルバレル。裏側にあるヒンジ式の「アゴ」の開閉によって巻き上げ残量が示されます。パワーリザーブ表示は通常、エネルギー消費の少ないシンプルな針式インジケータを採用しますが、HM10 パンダでは、存在感のある印象的な表示方法を選びました。巻き上げと時刻調整は、オロロジカル・マシン N°10 パンダ本体の背面にある独立したリューズで行います。

**オンリーウォッチ**

2005年に創設され、モナコ筋ジストロフィー協会が主催し、モナコ公国アルベール2世大公殿下の後援のもとに開催される「オンリーウォッチ」は、隔年実施の時計専門オークションで、ユニークピースのみが出品されます。落札で得られた収益は、神経筋疾患、特にデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療・研究のために寄付されます。このオークションは、これまでに8回開催され、合計7,000万ユーロを超える収益をあげています。

オンリーウォッチ 2021は、11月6日（土）ジュネーブで開催されます。状況が許せば、コレクションは世界中約10か所を巡回するワールドツアーに出発します。9月22日～25日モナコで開催されるモナコ・ヨットショーを皮切りに、クリスティーズのオークションで幕を閉じます。

**HM10 パンダ フォー・オンリーウォッチ：技術仕様**

**特徴：**

他に類を見ないHM10 パンダ フォー・オンリーウォッチは、ステンレススティールとチタンのケース（スタンダードなHM10ケースはチタンまたはレッドゴールド製）に納められ、パンダを象ったユニークなディテールが詰まっています。多分野にわたるデザイナー、リー・ユエン-ラパティ（@onehourwatch）の手によるイラスト作品とともにお届けします。

**エンジン：**

手巻き式自社製ムーブメント

振動数：2.5 Hz（18,000 bph）

ドーム型文字盤の上に浮く、伝統的な調整ネジ4個を備えた特注の14mm宙吊りテン輪

時・分ドームとアワーマーカーにスーパールミノバを使用

45時間のパワーリザーブを実現するシングルバレル

301部品、34石

左上11時位置に巻き上げ用リューズ、右上1時位置に時刻調整用リューズ

**機能 / 表示**

左ドームに時表示（12時間で1回転するアルミニウム製ドーム）

右ドームに分表示（60分で1回転するアルミニウム製ドーム）

パンダの歯の開閉によるパワーリザーブ表示（アゴが閉じると巻き上げ残量ゼロ）

**ケース：**

上部：ステンレススティール、ブラックのラッカー仕上げ5か所、ホワイトのラッカーで仕上げ2か所（それぞれ3層のカラーと7層のニスを塗布）

下部：グレード5チタン、「プレシコート」マットブラックPVDコーティングオンリーウォッチ特別ロゴ「Only Watch - create beauty to do good」を刻印

ラグ：「プレシコート」マットブラックPVDコーティングを施したグレード5チタン

耳：グレード5チタンを「アシュラブ」ボンディング加工でサファイアクリスタルのドームに接合

尻尾：セラミックス（グレード5窒化ケイ素球）

サイズ：54mm x 45mm x 24mm

防水性能：5気圧 / 50m / 160フィート

**サファイアクリスタル**

両面反射防止加工を施した2つのサファイアクリスタル。

**ストラップ＆バックル**

片面がブラック、反対側がホワイトの、手作業でステッチを施した白黒ストラップ

# HM10 オンリーウォッチ担当の「フレンド」たち

**コンセプト**：マキシミリアン・ブッサー（MB&F）

**デザイン**：エリック・ジルー（Through the Looking Glass）

**技術・製造管理**：セルジュ・クリクノフ（MB&F）

**研究開発**：ロバン・アンヌ、トマ・ロレンザト、ジョイ・ミゼレス、ジュリアン・ピーター（MB&F）

**ムーブメント開発**：ギヨーム・テヴナン（MB&F）

**イラスト**：リー・ユエン-ラパティ（@OneHourWatch）

**ケース**：リカルド・ペスカンテ（Les Artisans Boitiers）、アラン・ルマルシャン、ジャン＝バティスト・プレト＆ロマン・カンプロ（MB&F）

**ケース加工**：クリストフ・フェーヴル（U.N.D.F）

**サファイアクリスタル**：M.グロ（Novo Crystal）

**サファイアクリスタルの反射防止加工**：アントニー・シュワブ（Econorm）

**ホイール、ピニオンおよび軸の精密研削加工**：ポール＝アンドレ・タンドン（Bandi）、ジャン＝フランソワ・モジョン（Chronode）、ダニエル・ギュミ（Decobar Swiss）、Atokalpa、Le Temps Retrouvé

**ゼンマイ・ジャンパー：**アラン・ぺレ（Elefil Swiss）

**テン輪**：アンドレアス・クルト（Precision Engineering）

**ヒゲゼンマイ**：ステファン・シュワブ（Schwab-Feller）

**香箱**：ダニエル・ギュミ（Decobar Swiss）

**地板・受け・インデックス**：バンジャマン・シニュード（Amecap）、アラン・ルマルシャン＆ジャン＝バティスト・プレト（MB&F）、マルク・ボリス（2B8）

**ムーブメント部品手仕上げ**：ジャック＝アドリアン・ロシャ、デニス･ガルシア（C.-L. Rochat）

**PVD加工**：ピエール＝アルベール・ステインマン（Positive Coating）

**バックル**：G&F Châtelain

**リューズ**：Cheval Frères
**尻尾**：Saphirwerk

**文字盤（時・分ドーム）**：ハサン・シャイバ、ヴィルジニー・デュヴァル（Les Ateliers d’Hermès Horlogers）

**ムーブメント組み立て**：ディディエ・デュマ、ジョルジュ・ヴェイジー、アン・ギテ、エマニュエル・メートル、アンリ・ポルトブフ（MB&F）

**社内機械加工**：アラン・ルマルシャン、ジャン＝バティスト・プレト、ロマン・カンプロ（MB&F）

**品質管理**：シリル・ファレ（MB&F）

**アフターサービス**：トマ・インベルティ（MB&F）

**ストラップ**：Multicuirs

**化粧箱**：オリヴィエ・ベルトン（Soixanteetonze）

**ロジスティックスおよびプロダクション**：ダヴィド・ラミー、イザベル・オルテガ、アシュレイ・ムシエ（MB&F）

**マーケティングおよび広報**：シャリス・ヤディガログルー、ヴァネッサ・アンドレ、アルノー・レグレ、カミーユ・レックス（MB&F）

**M.A.D.ギャラリー：**エルヴェ・エスティエンヌ（MB&F）

**販売**：ティボー・ヴェルドンク、ヴィルジニー・マルション、セドリック・ルーセル、ジャン＝マルク・ボリー（MB&F）

**グラフィックデザイン**：シドニー・ベイ（MB&F）

**製品撮影**：ローラン＝グザビエ・ムーラン、アレックス・トイスチャー

**ポートレート撮影**：レジス・ゴレ（Federal）

**ウェブマスター**：ステファン・バレ（Ideative）

**映像**：マルク＝アンドレ・デシュー（MAD LUX）

**テキスト**：ソフィー・ファーリー（Worldtempus）

**MB&F – コンセプトラボの誕生**

2005年に設立されたMB&Fは、世界初の時計製作専門コンセプトラボとして傑出した創造性を誇ります。ブランドはこれまでに約20種類の秀逸なキャリバーを開発し、それらをベースにして製作されたオロロジカル・マシンとレガシー・マシンは高い評価を得てきました。そして現在も、創業者でありクリエイティブディレクターでもあるマキシミリアン・ブッサーのビジョンに基づき、従来の時計作りの殻を破ってキネティックアートを思わせる立体感豊かな作品を生み出し続けています。

マキシミリアン・ブッサーは高級腕時計ブランドで15年間管理職を務めた後、2005年ハリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を創立。MB&Fは、ブッサーが尊敬し、働く喜びを分かち合うことのできる才能あるオロロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプト・ウォッチのデザインと小規模生産を行う芸術的なマイクロエンジニアリング・ラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカルマシーンHM1を世に送り出しました。HM1の彫刻の様な立体的なケースと美しく仕上げたエンジン（ムーブメント）は、その後のブランド特有のオロロジカルマシーンの基準となりました。全てのマシーンは時を告げるためというより、時を語るマシーンなのです。こうして製作されたオロロジカルマシンでは、宇宙（HM2、HM3、HM6）や大空（HM4、HM9）、道（HM5、HMX、HM8）、動物王国（HM7、HM10）を探索するマシンがイメージされています。

2011年には、MB&Fはラウンドケースのレガシーマシン・コレクションを発表。これらはMB&Fにとってよりクラシカルなもので、現代的な芸術品を創作するために往年の偉大な時計製造革新者とは異なる視点で複雑機構を解釈し、19世紀の腕時計製造の卓越性への敬意を払っています。LM1 及びLM2に続いて発表されたLM101は、全て自社開発したムーブメントを搭載する初のMB&Fマシン。そして、コレクションの幅をさらに広げるレガシー・マシン・パーペチュアル、レガシー・マシン・ スプリットエスケープメントLM サンダードームの登場。2019年は史上初のレディース用MB&Fマシン「LM フライングT」の制作によりターニングポイントを迎えました。ターニングポイントを迎えました。2021年には、MB&Fはレガシー・マシン誕生10周年を記念してLMXを発表。 MB&Fは現代的で型破りなオロロジカルマシーンと、歴史からインスパイアしたレガシーマシンを交互に発表しています。

MB&Fの「F」が「フレンズ」（Friends）を表していることから分かるように、優れたアーティストや時計職人、デザイナー、様々な分野の製造業者をブランドにとっての「フレンド」と考え、協力関係を築くことはごく自然な成り行きでした。

そうした姿勢がブランドにもたらしたのが、パフォーマンスアートとコラボレーション作品という新たな2つのジャンルでした。パフォーマンスアート・モデルは、創造性豊かな社外のフレンドがMB&Fのマシンをベースにしてアレンジを加え、新たな形で表現した作品。一方のコラボレーション作品は、腕時計ではなく別のタイプのマシンで、MB&Fのアイデアとデザインに基づいて独創的なスイスのマニュファクチュールが設計、製造を行います。レペ1839と共同で製作されたクロックなど、コラボレーション作品の多くは時間を知らせるマシンとなり、リュージュやカランダッシュとのコラボレーションでは別の種類のメカニカル・アートが創作されました。

ブッサーは、こうして誕生したあらゆるマシンにその魅力を発揮できる舞台を与えるため、従来型のブティックに陳列するのではなく、他のアーティストによる多彩なメカニカル・アートとともにアートギャラリーに展示することを思いつきました。このアイデアにより、ジュネーブに最初のMB&F M.A.D.ギャラリーが設立され（「M.A.D.」はMechanical Art Devices：メカニカル・アート・デバイスの略）、その後台北、ドバイ、香港にもM.A.D.ギャラリーがオープンしました。

MB&Fがこれまでに成し遂げた革新的な成果に対しては、いくつもの権威ある賞が与えられてきました。全てを網羅することはできませんが、名高い「ジュネーブ時計グランプリ」においては5つもグランプリを獲得しています。2019年にはLM フライングTが「ベストレディースコンプリケーション賞」を獲得。2016年にはレガシー・マシン・パーペチュアルが「ベストカレンダー ウォッチ賞」を受賞。2012年にはレガシー・マシン No.1が「パブリック賞（時計ファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」をダブル受賞。また2010年の同グランプリでは、HM4サンダーボルトで「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。そして2015年には、HM6スペースパイレートが国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最優秀賞である「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しています。